

二十四節季(2011~2020)10年間

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
小寒	01/06	01/06	01/05	01/05	01/06	01/06	01/05	01/05	01/06	01/06
大寒	01/20	01/21	01/20	01/20	01/20	01/21	01/20	01/20	01/20	01/20
立春	02/04	02/04	02/04	02/04	02/04	02/04	02/04	02/04	02/04	02/04
雨水	02/19	02/19	02/18	02/19	02/19	02/19	02/18	02/19	02/19	02/19
啓蟄	03/06	03/05	03/05	03/06	03/06	03/05	03/05	03/06	03/06	03/05
春分	03/21	03/20	03/20	03/21	03/21	03/20	03/20	03/21	03/21	03/20
清明	04/05	04/04	04/05	04/05	04/05	04/04	04/04	04/05	04/05	04/04
穀雨	04/20	04/20	04/20	04/20	04/20	04/20	04/20	04/20	04/20	04/19
立夏	05/06	05/05	05/05	05/05	05/06	05/05	05/05	05/05	05/06	05/05
小満	05/21	05/21	05/21	05/21	05/21	05/20	05/21	05/21	05/21	05/20
芒種	06/06	06/05	06/05	06/06	06/06	06/05	06/05	06/06	06/06	06/05
夏至	06/22	06/21	06/21	06/21	06/22	06/21	06/21	06/21	06/22	06/21
小暑	07/07	07/07	07/07	07/07	07/07	07/07	07/07	07/07	07/07	07/07
大暑	07/23	07/22	07/23	07/23	07/23	07/22	07/23	07/23	07/23	07/22
立秋	08/08	08/07	08/07	08/07	08/08	08/07	08/07	08/07	08/08	08/07
処暑	08/23	08/23	08/23	08/23	08/23	08/23	08/23	08/23	08/23	08/23
白露	09/08	09/07	09/07	09/08	09/08	09/07	09/07	09/08	09/08	09/07
秋分	09/23	09/22	09/23	09/23	09/23	09/22	09/23	09/23	09/23	09/22
寒露	10/09	10/08	10/08	10/08	10/08	10/08	10/08	10/08	10/08	10/08
霜降	10/24	10/23	10/23	10/23	10/24	10/23	10/23	10/23	10/24	10/23
立冬	11/08	11/07	11/07	11/07	11/08	11/07	11/07	11/07	11/08	11/07
小雪	11/23	11/22	11/22	11/22	11/23	11/22	11/22	11/22	11/22	11/22
大雪	12/07	12/07	12/07	12/07	12/07	12/07	12/07	12/07	12/07	12/07
冬至	12/22	12/21	12/22	12/22	12/22	12/21	12/22	12/22	12/22	12/21

二十四節季と雑節についての解説

- 1 二十四節気は、太陰暦を使用していた時代に、季節を現すための工夫として考え出されたものです。一年を二十四に等分し、その区切りと区切られた期間とにつけられた名前です。現在でも季節の節目を示す言葉として使われています。
- 2 上の表で分かる通り、各24節季の月日は、毎年殆ど同じですが、必ずしも毎年同じとは限りません。上の表では、立春、小暑、処暑、大雪など10年間、たまたますべて同じ日ですが、同じとは限りません。上の表にはありませんが、たとえば、2025年の立春は、2月3日です。また2024年の小暑、処暑はそれぞれ、7月6日、8月22日、2028年の大雪は、12月6日です。
- 3 国立天文台は、毎年2月の最初の官報で翌年の暦要項(れきようこう)を発表しています。暦要項には、国立天文台で推算した翌年の暦(国民の祝日、日曜表、二十四節気および雑節、朔弦望、東京の日出入、日食・月食など)を掲載しています。今年2012年は2月1日に発表されます。
- 4 二十四節気は、中国の戦国時代の頃に太陰暦による季節のズレを正し、季節を春夏秋冬の4等区分にするために考案された区分手法の一つで、1年を12の「中気」と12の「節気」に分類し、それらに季節を表す名前がつけられている。なお、日本では、江戸時代の頃に用いられた暦から採用されたが、元々二十四節気は、中国の気候を元に名づけられたもので、日本の気候とは合わない名称や時期もある。そのため、それを補足するために二十四節気のほかに土用、八十八夜、入梅、半夏生、二百十日などの「雑節」と呼ばれる季節の区分けを取り入れたのが、日本の旧暦となっている。
- 5 雑節とは、五節句・二十四節気以外の、季節の移り変わりの目安となる日の総称です。農業に従事する人々は二十四節気(中国で作られた暦)では十分に季節の変化を読み取れないため、その補助をする為に考えられた日本独自の暦です。雑節が考え出された背景には、農家が季節の移り変わりを正確に理解できれば、農作物に多大な損害を出さずにすむという自然現象と農業の深い関係がありました。例えば「もうすぐ八十八夜だから、霜が降りてくる前に対策をしよう」というわけです。